《Lesson 1》 関係副詞: why

- ・ 先行詞が「理由」を表す単語/フレーズで、その「理由」が関係詞節で「副詞」として使われる場合に登場。
- ・主に使われる先行詞は a reason / the reason。

【関係副詞 why が入るフレーズ:作り方】

<例1> 「彼が毎朝早くに起きる(その)理由」というフレーズを作る場合

<例2> 「あなたが会議に遅れたちゃんとした理由」というフレーズを作る場合

ステップ①: それぞれのフレーズを、「先行詞」と「関係詞節に入る文」に分ける。

	先行詞	関係詞節に入る文
<例1>	the reason	he gets up early every morning for it
	< (その) 理由>	<彼は、 <u>そのために</u> 毎朝早くに起きます>
<例2>	a good reason	you were late for the meeting for it
	<ちゃんとした理由>	<あなたは <u>そのために</u> あの会議に遅れました>

ステップ②:「先行詞」と「関係詞節に入る文」の間に「関係副詞」を置く。

「関係詞節に入る文」で、先行詞が the reason / a good reason で、先行詞を表す句 for it が「副詞句」として使われているため、ここでは関係副詞の why が使われる。関係副詞は、先行詞と関係詞節に入る文の間に置く。

	先行詞	関係副詞	関係詞節に入る文
<例1>	the reason	why	he gets up early every morning for it
	< (その) 理由>		<彼は、 <u>そのために</u> 毎朝早くに起きます>
<例2>	a good reason	why	you were late for the meeting for it
	<ちゃんとした理由>		<あなたは <u>そのために</u> あの会議に遅れました>

ステップ③:「関係詞節に入る文」の副詞句を取る。

	先行詞	関係詞節(関係副詞+文)
<例1>	the reason	why he gets up early every morning
	(その) 理由	彼が、毎朝早くに起きる
<例2>	a good reason	why you were late for the meeting
	ちゃんとした理由	あなたは、あの会議に遅れた

これらのフレーズを文の中で使うと、例えば以下のようになります。

<例1> Do you know the reason why he gets up early every morning? (彼がなんで毎朝早くに起きる(その)理由を知っていますか?)

<例2> You have to give us a good reason why you were late for the meeting.

(あなたが会議に遅れたちゃんとした理由を私たちに言わないといけません)

ポイント!「先行詞」や why の省略

関係副詞の why も、先行詞または why を省略して使うこともできます。

<例> Do you know the reason why he gets up early every morning?

=Do you know why he gets up early every morning? (先行詞 the reason の省略。間接疑問文ともいえる)

=Do you know the reason he gets up early every morning? (why の省略)

ポイント! よく使われる That is why ~ . と The reason (why) A is because B.

<That is why \sim .>

先に理由を説明し、その後で、That is why \sim . の文で、「それが \sim の理由です」と補足する表現となります(主に it ではなく that が使われるのがポイント)。また、関係詞節が過去のことであっても That is why \sim . が使えることが多いです(「基本的に"その理由"は現在も当てはまるから」)。

<例> That is why I was late. =〇 (それが、私が遅れた理由です) It is why I was late. = Δ

<The reason why A is because B>

「Aの理由は、Bだからです」といった意味となります。

<例> The reason why I was late was because my train didn't come on time. (私が遅れた理由は、私の電車が時間通りに来なかったからです)

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。